様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 １１ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０１３３

研究課題名（和文）中世キリスト教世界の死生観－オトラント大聖堂の舗床モザイクを中心に

研究課題名（英文）The Apocalyptic World View of Early Medieval Christianity---The Floor Mosaic of Otranto Cathedral

研究代表者
瀧口　美香（TAKIGUCHI, Mika）

明治大学・商学部・准教授

研究者番号：８０４０９４９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、南イタリアのアプリア地方に位置する一港湾都市オトラントの大聖堂舗床モザイク（1163-1165年）をテーマとして、図像解釈学の観点から個々のモティーフを検討するとともに、 舗床モザイク全体が体現するところの神学的メッセージを解読することを試みた。身廊中央には十字架を示唆する大きな樹木が据えられ、枝葉の間に旧約の物語が配される。聖俗混在する図像群の解釈は、容易ではない。本研究では①南翼廊の図像をどう解釈するか、②大聖堂各部分がいかに統合され、連続性・一貫性ある全体をつくり出しているのかという2点を解明することによって、舗床モザイクの背後に横たわる中世キリスト教の死生観について考察した。

研究成果の概要（英文）：This study is focused on the floor mosaic of Otranto Cathedral (1163-1165) in Apulia in southern Italy. The motif of a huge tree in the axis of the nave is conspicuous, with several scenes from the Old Testament distributed between its branches. In this study, all of the motifs in the nave and the transepts are carefully examined so as to clarify how they create an integral whole and convey their meaning. Some secular and mythological images, such as those of King Arthur, King Alexander, the zodiac signs and Siren were intertwined within the Old Testament iconography, and their significance is considered in relation to the biblical images. The most enigmatic depiction in the southern transept is deciphered in comparison with illuminations from the manuscripts of the apocalyptic commentary. In conclusion, it is argued in this study that the floor mosaic as a whole embodied the apocalyptic world view of early Medieval Christianity.

研究分野：ビザンティン美術史

キーワード：舗床モザイク　図像学　キリスト教美術　ロマネスク美術　西洋美術史

１．　研究開始当初の背景

本研究は、南イタリアのアプリア地方に位置する一港湾都市オトラントの、大聖堂舗床モザイク（1163-1165 年）をテーマとしている。聖堂の床面全体を覆うモザイクは、キリスト教図像とともに世俗的なモティーフ（天体、月歴、労働、 狩猟、楽隊、神話上の動物）を含んでいる。聖なる図像を足で踏むことになってしまうために舗床モザイクにキリスト教的なモティーフを配することはまれである。オトラントにおいてもキリストの像は表されず、身廊中央に十字架を示唆する大きな樹木が据えられ、枝葉の間に旧約の物語が配される。聖俗混在する図像群は謎に包まれた部分が多く、容易に解読しうるものではない。こうした背景のもと、本研究は、図像解釈学の観点から個々のモティーフを検討するとともに、舗床モザイク全体が体現するところの神学的メッセージを解読することを目指して始められた。

２．　研究の目的

オトラント大聖堂舗床モザイクは、伝統的キリスト教図像を基盤としながら、異なる複数の源泉から図像を引用し、それらを組み合わせることによって、それまでにない新しい楽園像を完成させた。かつてアプリア地方はビザンティン帝国の領土であり、ビザンティン様式を色濃く反映した聖堂が建設される一方、大聖堂の舗床モザイクは、ビザンティン帝国の装飾体系に依拠しない図像体系をうち立てた。やがてビザンティン帝国から大きく分離していくことになる西ヨーロッパのキリスト教世界の行く先を、示唆するものであると考えられる。これまで、西ヨーロッパ近世・近代の死生観は、「死の舞踏」やヴァニタス絵画の研究を通して明らかにされてきた。本研究の目的は、さらに遡ってこうした死生観の源流をたどろうとするものであった。本研究では、第一に、これまで解明されてこなかった南翼廊のプログラム解読をめざした。いまだに混迷している二人の人物を特定し、そのうちの一人が持つ巻物に記された文字を解読ができれば、南翼廊の図像の源泉を探し当てる、大きな一歩となるからである。

３．　研究の方法

第一にオトラントの大聖堂ならびにその他の聖堂建築、アプリア地方諸都市の聖堂群に関する調査を行った。舗床モザイクの素材、図像分析を行うとともに、建造物の改修や増築、モザイクの修復状況の把握を行う。先行研究の収集と検討、図像解釈のための資料収集と分析を合わせて行った。

第二に、舗床モザイクの図像プログラム解読を基盤としながら、類似作例や比較図像を収集し、オトラント図像の源泉を探るとともに、オトラントにのみ見られる独自性を浮かび上がらせた。またそれらを生み出したところの、中世地中海キリスト教世界における終末論の意味と特質を探った。

４．研究成果

本研究では、①南翼廊の図像をどう解釈するか、②大聖堂各部分がいかに統合され、連続性・一貫性ある全体をつくり出しているのかという 2 点を解明することによって、舗床モザイクの背後に横たわる中世キリス

ト教の死生観について考察した。
南翼廊図像を解釈する際に考慮すべき点は、北翼廊・アプシスとの整合性である。アプシスには黙示録註解の図像、北翼廊には最後の審判の図像が配置されている。そのため南翼廊にもまた、終末論的思想を表す図像が配されていると筆者は推測した。そこで、南翼廊の樹木を、ダニエル書に記される樹木との関連において解読することを試みた。特に、黙示録注解書の写本挿絵（いわゆるベアトス写本）を検討することで、オトラント図像の解読をすすめた。身廊のソロモンとセイレーンの組み合わせ、カインとアーサー王の組み合わせについては、聖書の登場人物と世俗文学の登場人物との接点に焦点を当て、なぜ聖と俗が聖堂において並列に扱われるのか、それによって何を伝えようとしているのかという点を明らかにした。
オトラントが、（旧約とはいえ）聖なる図像をあえて床面に配した意図とは、本来天高く地上から遠く隔たったところにある神の国を、「歩いてゆくことのできる楽園」として描き出すことであった。聖堂の壁面を利用した場合、神の国は必然的に天井近く高いところに配されることになり、そのために下からそれを見上げる信者にとって、神の国は届きようもなく遠い。ところがオトラントは、それを（壁面に表すのではなく）床面に移しかえた。そのために、身廊中央の巨大な樹木の幹をたどりながらアプシス（聖堂の東端）へと進みゆくことで、樹木の頂に表された神の国へと、わたしたちは歩いて至ることができる。これまでのキリスト教における神の国の表し方を大きく覆す、創意工夫に満ちた聖堂の舗床モザイクは、いったいどのように作り上げられたのか。それを解明したことが、本研究の成果である。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

<u>瀧口美香</u>「モンレアーレ大聖堂のモザイク装飾について」『いすみあ』7 (2014), 23-73. 査読有

<u>瀧口美香</u>「ビザンティン旧約聖書写本の挿絵について」『明治大学人文科学研究所紀要』77 (2014), 161-208. 査読有

<u>瀧口美香</u>「初期キリスト教聖堂の舗床モザイク」『明治大学人文科学研究所紀要』73 (2013), 188-243. 査読有

<u>瀧口美香</u>「柱頭研究の概観と図像解釈の可能性—ゲミレル島の柱頭を中心として」『明治大学人文科学研究所紀要』71 (2012), 28-54. 査読有

<u>瀧口美香</u>「神の家を支える柱—カラートセマン　柱上行者シメオンの聖堂について」『明治大学人文科学研究所紀要』71 (2012), 1-26. 査読有

<u>Mika Takiguchi</u>, “Some Greek Gospel Manuscripts in the British Library: Examples

of the Byzantine Book as Holy Receptacle and Bearer of Hidden Meaning," *The Electronic British Library Journal* (2011).
http://www.bl.uk/eblj/2011articles/articles.html
査読有

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 1 件）
瀧口美香『ビザンティン四福音書写本挿絵の研究』創元社, (2012), 284**頁**.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)**研究代表者**
瀧口美香（TAKIGUCHI Mika）
明治大学商学部准教授
研究者番号：80409490

(2)**研究分担者**
（　　）

研究者番号：

(3)**連携研究者**
（　　）

研究者番号：